

1. 県と市の役割分担について

○ 主な事業と役割分担

このエリアでは、本県の南北軸としての骨格をなす京奈和自動車道(大和北道路)と(仮称)奈良ICの整備を契機として、高い交通結節機能を有する拠点の形成と、先端技術を活用したまちづくりを実現するため、下記のような役割分担のもと、事業を進めています。

【① 国・NEXCO・県】

京奈和自動車道(大和北道路)と(仮称)奈良ICの整備

【② 県・JR・市】

JR関西本線高架化、新駅設置

・本事業により、踏切4か所が撤去されることとなり、安全性向上や渋滞解消にも大きな効果が期待できます。

【③ 県】

当エリアと奈良市中心市街地とのアクセス性を確保するため、都市計画道路(西九条佐保線・大安寺柏木線)を整備

【市】 面的整備、駅前広場の整備等



○ 各事業の進捗

① 京奈和自動車道(大和北道路)と(仮称)奈良ICの整備

・地盤改良工事や事業用地の取得が着実に進んでいます。  
(R4.3末時点用地買収進捗率:こおりやましもつみち 大和北道路((仮称)奈良IC～郡山下ツ道JCT間)約83%)



② JR関西本線高架化、新駅設置

・令和3年9月より高架化の工事に着手し、高架工事期間中に使用する仮線の設置工事を進めています。



③ 都市計画道路(西九条佐保線・大安寺柏木線)の整備

・着工に向け、事業用地の取得が着実に進んでいます。  
(R4.3末時点用地買収進捗率:西九条佐保線 約55%)



2. 今後のまちづくりに向けたビジョンについて

○ JR新駅の周辺エリアについては、奈良県の新たな玄関口としてふさわしいまちづくりを進めるため、最先端の技術を活用した「AIタウン」の実現を掲げ、本県が市と共同で設置した検討会において議論を進めてきました。

まちづくりのコンセプト(目指すまちの姿)

- 1300年を経て、再び世界に開かれた文化交流のゲートとなるまち
- 「知の交流拠点」であった大安寺のコンテクストを活かしたまち
- グリーンフィールドを活かし、先端的な取り組みが展開されるまち

○ まちづくりのプランについては、今後も議論を継続し、具体化を図っていくこととしていますが、奈良の歴史や文化と、最先端技術を組み合わせたアイデアが出てきています。

例:奈良の文化財と先端技術を組み合わせた新たなコンテンツの創出

文化財の空間情報をデータ化し、研究・修復や観光等に活用。



(参考)東大寺執金剛神立像の3Dデータ化及び色彩のCG復元

(出典:文化庁「先端技術による文化財活用ハンドブック」)

例:自動運転等の技術を活用した先進的交通サービス

高度な位置測定技術による自動運転車両や、AIによる配車プログラムを使用し、需要に適したモビリティを提供。



(参考)自動運転車を活用した新たな交通モード

(出典:内閣府「未来技術社会実装事業 事例集」 経済産業省、国土交通省 自動走行ビジネス検討会 「自動走行の実現及び普及に向けた取組報告と方針」)

八条・大安寺周辺地区における交通結節機能の形成に向けた取り組みや、県の新たな玄関口としての広域的なまちづくりの方向性・ビジョンについて、県にご意見をお寄せください。